
文部科学省

平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」

事業報告書 【別冊】

(平成23年10月～平成24年3月)

【事業名称】

「岡山オルガノン」の構築

—学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—



目 次

1. 大学教育連携センター -----	1
(1) ICT活用教材作成講習会の実施	
(2) 将来構想委員会について	
(3) 岡山オルガノン事業報告会の開催	
(4) 岡山オルガノン代表者委員会について	
(5) 第3回岡山オルガノン連携評価委員会について	
(6) e-Learning 運営委員会について	
2. 岡山大学オフィス -----	19
(1) 大学連携による遠隔授業とFD・SDに関するシンポジウムの実施	
(2) 学士課程教育連携委員会	
3. 中国学園大学オフィス -----	21
(1) ビジネスマインド集中講座	
(2) 社会人基礎力養成シンポジウム	
(3) ワーキング、意見交換会の実施	
4. 岡山商科大学オフィス -----	27
(1) 双方向コンテンツ委員会の活動	
(2) 地域活性化委員会の活動	
5. 各連携校取組 -----	41
(1) 吉備国際大学	
(2) くらしき作陽大学	

大学教育連携センター

大学教育連携センター

1

ICT活用教材作成講習会の実施

平成23年度のICT活用教材作成講習会は、「まなびオルガノンの効果的な活用について」をテーマに、平成23年11月10日（木）15時30分から17時、岡山理科大学第11号館5階実習室で実施した。

実施趣旨としては、教職員に対してe-Learning活用法やVOD教材作成法の講習会を開き、その手法や取組における必要性について学習する機会を設け、来年度以降も継続して実施される予定の遠隔教育に対し、ICT技術を用いた教育の拡充を図るとともに、多様な形態による教育の提供が行えるようにすることを目指した。

平日での開催にもかかわらず、連携校より教職員28名もの参加があった。

講習会では最初に、単位互換教育に関する学内制度の整備が不十分なためVOD型遠隔教育の受講が困難な連携校が存在するようなので、この点で先駆的な取組を行ってきた加計学園関連大学を代表して岡山理科大学から情報提供を行った。「岡山理科大学の単位互換制度について」と題して、大学教育連携センター長 木村宏より資料に基づき説明した。

続いて、「まなびオルガノンの基本操作とその活用方法」について大学教育連携センター e-Learning 専門スタッフ 岡戸真理子が実習を交えた説明を行った。前段では、本取組が独自に採用した学習管理システム(LMS)の機能と操作方法を詳細に記載したマニュアルに基づいて解説が行われた。引き続き実習に移ろうとしたが、LMSサーバーがレスポンスを返さない不具合が発生し、結果的に個別実習を行うだけの時間的余裕を持つことができなかった。そのため、操作に関する説明はプレゼンテーション画面を中心に実施したが、参加者にはLMSサーバーへのログインアカウントを付与し、後日各自でLMSの操作体験を行うことができるよう対応策を講じた。今回のようなサーバーの不具合は初めての発生であり、原因は現在究明中である。

最後に、「まなびオルガノンの特化した活用方法」について、岡山理科大学大学院生の井川真弓氏より実践報告があった。現在も継続して行われているLMSの機能拡張の現状、特に携帯電話からの学習管理システムへのアクセス機能の追加を中心とした内容であった。岡山オルガノンの単位互換教育にはまだ携帯電話の利用を検討していないが、今後の適用可能性に期待が持てる発表であった。

講習会を開催したことにより、「まなびオルガノン」の機能や操作方法について、連携校教職員の理解が深められ、受講学生に対するサポートの一層の充実を図ることができたと考える。

1. 大学教育連携センター

平成23年度

ICT活用教材作成講習会

- (1) 開会挨拶 および 岡山理科大学の単位互換制度について
(大学教育連携センター 木村 宏 センター長)
- (2) まなびオルガノンの基本操作とその活用方法について
(大学教育連携センター 岡戸 真理子 e-Learning 専門スタッフ)
- (3) まなびオルガノンの特化した活用方法について
(岡山理科大学大学院生 井川 真弓 氏)



岡山理科大学の単位互換制度について



まなびオルガノンの基本操作と
その活用方法について



まなびオルガノンの特化した活用方法について

2

将来構想委員会について

- (1) 将来構想委員会の開催について

「岡山オルガノン」の構築事業は申請当初より、補助期間終了後は県内の16大学および岡山県と岡山経済同友会を会員とする大学コンソーシアム岡山がその事業を継承することを前提にスタートした。したがって、最終年次である平成23年度の重点事業項目には、この事業継承をスムーズに継承させるための検討会議である「将来構想委員会」を開催し、できるだけ速やかに結論を得ることをうたっていた。

事業報告書第1部に平成23年9月までの経過を記述しているが、ここではその続きについて述べる。(表1-1)

1. 大学教育連携センター

表1-1 委員会等経過

第6回 将来構想委員会	
日時	平成23年9月5日(月) 16:00~17:00
場所	岡山理科大学 第11号館 5階 インターネット端末室1
議題	(1) 経費負担について
結果	補助期間終了後の継承事業実施に必要な各連携校の費用負担について、この段階での結論を得た。
第12回 大学コンソーシアム岡山 代表者会議	
日時	平成23年9月6日(火) 14:00~15:30
議題	(1) 事業継承案について (2) その他
結果	岡山オルガノン事業の継承案件を保留し、事業継承後の大学コンソーシアム岡山のあり方、および組織等についての検討が不十分であるので、これらを見直した上で再提案を行うこととなった。
第41回 大学コンソーシアム岡山 企画会議	
日時	平成23年9月22日(木) 17:30~19:00
内容	岡山オルガノン事業の継承に伴う、大学コンソーシアム岡山の事業方針等の再検討開始。平成24年度以降の事業内容の検討。
第42回 大学コンソーシアム岡山 企画会議	
日時	平成23年10月18日(火) 17:30~19:00
内容	岡山オルガノンの事業継承と平成24年度以降の事業内容について検討。
第7回 将来構想委員会	
日時	平成23年11月1日(火) 16:30~18:00
場所	岡山理科大学 9号館 3階 第1会議室
議題	(1) 岡山オルガノンの継承についての詳細検討 ・ 予算関係 ・ 組織関係 ・ 継承に関するスケジュール
第43回 大学コンソーシアム岡山 企画会議	
日時	平成23年11月15日(火) 17:30~19:00
内容	岡山オルガノン事業の継承について検討。平成24年度事業計画について検討。
第8回 将来構想委員会	
日時	平成23年11月25日(金) 16:30~18:00
場所	岡山商科大学 図書館6階 多目的室
議題	(1) 岡山オルガノンの継承について ・ 組織関係 ・ 予算関係
結果	大学コンソーシアム企画会議とすり合わせを行った結果の新事業継承案を了承。
第44回 大学コンソーシアム岡山 企画会議	
日時	平成23年11月25日(金) 18:30~20:30
内容	岡山オルガノンの事業継承案の了承。平成24年度事業計画案の了承。

1. 大学教育連携センター

第2回 岡山オルガノン代表者委員会	
日時	平成23年12月6日(火) 13:00~14:30
結果	平成23年度実施事業および将来構想委員会について報告した後、大学コンソーシアム岡山への岡山オルガノン事業の継承について審議し、原案が承認された。
第25回 大学コンソーシアム岡山 運営委員会	
日時	平成23年12月6日(火) 15:00~17:00
結果	岡山オルガノン代表者委員会で承認された岡山オルガノン事業の継承案について審議し、原案通り承認された。これに基づき平成24年度事業計画および予算案を審議し、原案が承認された。また、平成24年度の事業部および事務局体制についても審議し、新しい体制に変更することが承認された。
第13回 大学コンソーシアム岡山 代表者会議	
日時	平成24年1月20日(金) 13:00~14:00
結果	大学コンソーシアム岡山による岡山オルガノン事業の継承案を承認。平成24年度事業継承および予算計画案を承認。次期会長校は岡山理科大学に決定。

(2) 「岡山オルガノン」事業の継承構想

① 事業継承後の組織形態

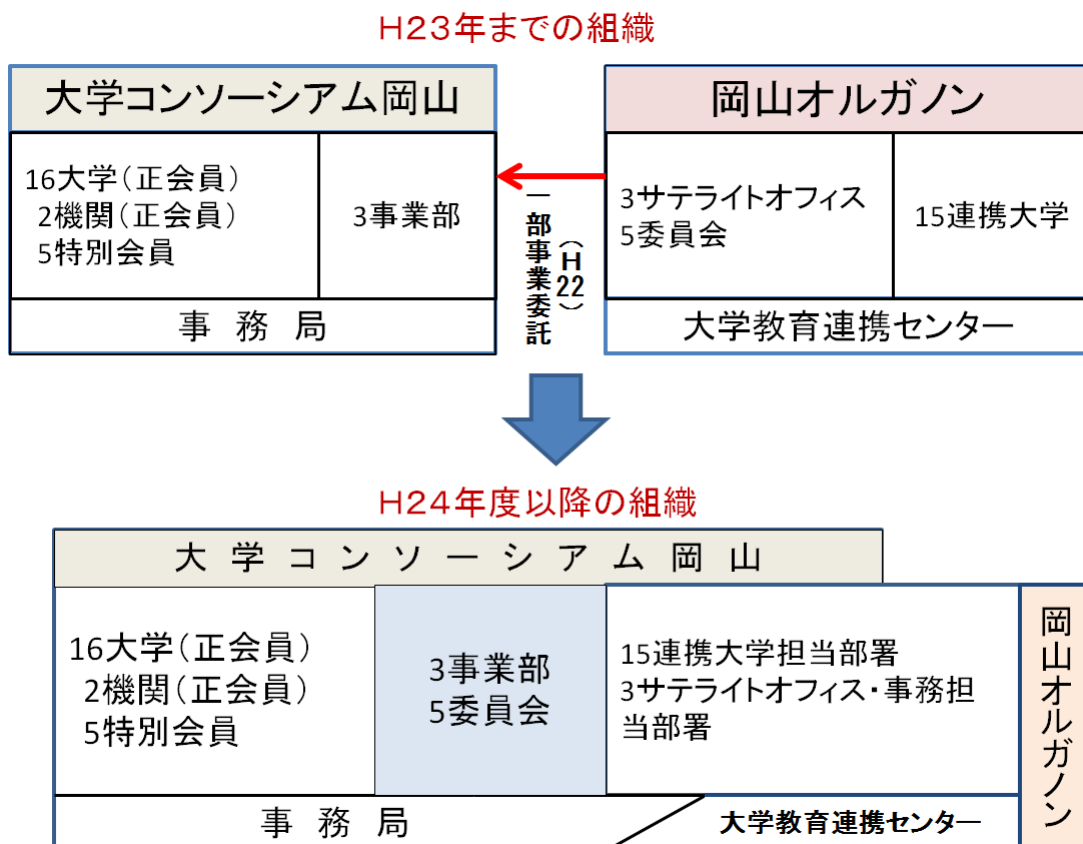


図1-1 平成24年度以降の組織図

1. 大学教育連携センター

② 継承される事業計画

初期の将来構想委員会にて向こう3年間の事業継承をまず策定し、その後の継承構想は遠隔教育システムの更新を含め改めて再検討することが認められているので、ここでは向こう3年間の事業計画案を提示する。

1) 遠隔教育による教育共有化事業

a. VOD型遠隔教育

平成24年度：平成23年度に開講した科目を中心に提供する。さらに平成23年度中に2科目分の新規コンテンツを作成しているため、これを追加配信する予定である。また、既存コンテンツの一部改訂等の編集作業が発生することを想定しているが、この作業は経験上1名で行えるものと考えている。

平成24年度には2科目程度の新規VODコンテンツを作成することを想定している。この作業はライブ授業撮影であれば2名(カメラ・音響担当およびPPT同期チェック担当)必要(スタジオ撮影においても2名が望ましい)であり、予算上は期間限定採用の補助員1名分を計上している。撮影および編集機材は岡山理科大学に揃っているため、これらの借用手続が必要となる。

今後は単位互換科目のみでなく、対面教育の支援システムとしての活用を促進したい。例えば、岡山県立大学が平成23年度に実施したように、対面授業の補助教育資源として授業計画の中に組み込んで使用する方式を拡充したい。この場合は、毎回の教員映像がなく、さまざまな講義・演習資料や課題の提供、および学生からのレポート提出システムとして使用することも可能である。

平成25～26年度：平成24年度に完成済みのコンテンツを配信することを想定する。

b. ライブ型遠隔教育

平成24年度：平成23年度に配信した14科目(「岡山学」はVOD科目として配信予定)を中心に配信することを想定しているが、一部受講学生が少ない科目があるため、これらの科目を遠隔科目として採択できるかどうか現段階では未定である。平成24年度以降は、単位互換科目以外に各連携校が開催する講演会などのライブ配信、および新たに設置予定の各種委員会をテレビ会議方式で開催することへ向けて用途拡充を図る。

平成25～26年度：平成24年度に配信された科目を中心にライブ型遠隔教育を継続して実施したい。

c. 遠隔教育の広報活動

平成24年度：平成24年度後期開始前に連携大学学部生向けに遠隔教育の案内ちらしおよびポスターを作成し、広報活動を行う必要があると考える。このような遠隔教育の仕組みが利用できることを認識していない学生がまだ多く存在するため、前年に引き続き広報費を計上した。ただ、この額では平成25年度向けのちらし作成には不足すると考えられるため、平成25年度向けのちらしについては大学コンソーシアム岡山の単位互換科目の案内ちらしと同

1. 大学教育連携センター

一紙面で広報することが望まれる。

平成24年度前期分のちらしとポスターは、今年度補助金を適用して作成可能である。

平成25～26年度：平成24年度中には岡山オルガノンと大学コンソーシアム岡山の単位互換教育の統合が制度上実現できるものと思われるので、平成25年度以降向けの案内ちらしは、大学コンソーシアム岡山と統合して作成・配布すべきであろう。

2) 地域活性化事業

平成24年度：平成23年度に多くの地域住民の参加を得て成功した地域活性化イベント「日ようび子ども大学」事業を継続発展させたいと考え、予算計上した。特に幼児・児童を対象とした取組は多くの大学で展開されており、平成23年度以上の参加校が期待できる。このような取組は大学主体で連携して行われることがなかったので、新しい運動の掘り起こしに成功した例と考えられる。したがって、継承すべき重要な事業であると考えられる。ただし、平成23年度の所要経費全体を賄うだけの予算立ては困難なので、開催計画の立案に当たっては会場選択などに対し、十分配慮しなければならないであろう。

平成25～26年度：平成24年度に引き続き、事業の継承を行いたい。

3) 学生交流事業（エコナイト）

平成24年度：従来から大学コンソーシアム岡山で実施してきた事業で、平成22年度および23年度には岡山オルガノンの事業として多くの大学と学生の参加を得た。この企画は夏の学生参加イベントとして定着しつつあるので、是非これを伸ばしていきたい。予算面では、大学コンソーシアム岡山のエコナイト関連予算と合わせて執行できるよう努めるべきであろう。

平成25～26年度：平成24年度に引き続き開催していただきたい。持ち回りで担当大学を決めて、一般市民も参加できる「エコロジー、省エネ、環境保護」などに関するシンポジウムを秋頃に開催することなどへの展開を期待したい。

4) 共同FD・SD事業

平成24年度：岡山オルガノンの事業では、連携大学間での共同FD・SD活動を重要な課題と捉えている。したがって、平成24年度もこの分野の事業を展開すべきであると考え、持ち回り方式で担当校を決めて、共同してFDシンポジウムおよびSD活動（テーマが許せば、平成22年度のように大学コンソーシアム岡山の吉備創生カレッジの特別科目として開催することも可能）を持続させていきたい。したがって、シンポジウムの広報費およびFDあるいはSD活動の講師謝礼1名分を予算計上した。

平成25～26年度：平成24年度に引き続き継続して実施することを期待する。

5) 社会人基礎力養成シンポジウム

平成24年度：従来から開講してきた「キャリア形成講座」の受講生を中心とし、多くの大学の学生・卒

1. 大学教育連携センター

業生が参加する事業として展開してきた社会人基礎力養成シンポジウムを継続して実施する。ただし、大学コンソーシアム岡山では「キャリア形成講座」を平成24年度より独自開講科目として廃止した（平成24年度は岡山理科大学の同名科目を単位互換科目として提供予定）ため、次年度以降の継続については再度平成24年度に検討する必要がある。

③ 予算計画

1) 事業推進費

上記の継承事業を連携15大学が共同運営するために必要な平成24年度の事業推進費は表1-2のとおりである。連携校の負担額は定額15万円と、各大学の在籍学生数1人当たり50円とする（表1-3）。

表1-2 平成24年度 事業推進費 予算書

科 目	明 細	小 計	合 計
1. 収入の部			
1 事業収入		4,023,000	4,023,000
連携大学事業費収入	4,023,000		
2 その他の収入		0	
事業収入	0		
2. 支出の部			
1 事業費			3,989,200
遠隔教育事業関係		3,390,000	
遠隔教育担当者人件費	2,772,000		
VOD撮影・編集補助員人件費	168,000		
広報費	450,000		
地域活性化イベント		259,200	
日ようび子ども大学事業費	259,200		
エコナイト事業費		100,000	
広報費等	100,000		
FD・SD活動経費		180,000	
広報費等	100,000		
外部講師謝礼	80,000		
社会人基礎力養成シンポジウム		60,000	
広報費等	60,000		
2 通信関係		33,800	33,800
ドメイン使用料	3,800		
WEBサーバ等使用料	30,000		

1. 大学教育連携センター

表 1-3 平成24年度 連携校 負担額

大学名	学生数	事業推進費	
		計算上の額	請求額
岡山大学	10,287	664,350	665,000
岡山県立大学	1,903	245,150	246,000
岡山学院大学	182	159,100	160,000
岡山商科大学	1,597	229,850	230,000
岡山理科大学	5,275	413,750	414,000
川崎医科大学	697	184,850	185,000
川崎医療福祉大学	3,674	333,700	334,000
環太平洋大学	1,257	212,850	213,000
吉備国際大学	2,011	250,550	251,000
倉敷芸術科学大学	1,695	234,750	235,000
くらしき作陽大学	1,290	214,500	215,000
山陽学園大学	564	178,200	179,000
就実大学	2,080	254,000	254,000
中国学園大学	490	174,500	175,000
ノートルダム清心女子大学	2,325	266,250	267,000
合計	35,327	4,016,350	4,023,000

注) ・学生数は平成23年5月1日現在の学生数である。

(各大学からの大学コンソーシアム岡山への登録人数を適用している。)

- ・請求額は1,000円未満を個別に切り上げているので、横計と合計額が一致しない。
- ・平成25年度以降の事業推進費については、平成24年度の支出実績等を勘案し、平成24年度予算策定時に再度検討を行う。
- ・平成24年度に事業推進費の繰越額が生じた場合は、翌年度に繰り越し、この額を含めて予算計画を策定する。

2) 岡山オルガノンの遠隔教育維持のための経費

1 大学あたりの経費のうち、事業推進費に含めない維持管理経費を表1-4に示す。

表 1-4 平成24年度 維持管理経費 予算書

分類	項目	月額	年額	備考
テレビ 会議	テレビ会議システム 合計	18,183	218,196	
	フレッツ・グループ	3,920		20拠点分
	フレッツサービス	8,085		学校向け割引適用
	MCU保守費	6,178		岡山理科大学契約分の負担額
VOD	VOD型教育システム 合計	10,849	130,188	
	まなびオルガノンサーバ維持費	2,099		
	専用線サービス	2,450		
	LMSシステム維持費	6,300		
計	合計	29,032	348,384	

1. 大学教育連携センター

- 注)
- ・ライブ型教育の配信校は安定的な配信を維持するために、ビデオ会議システム保守費（年額73,500円）を別途計上されることを推奨する。
 - ・上記金額は平成23年度支払い実績に準拠している。
 - ・維持管理経費は平成26年度まで継続することを想定している。平成26年度において事業の継続について改めて検討することとする。

3 岡山オルガノン事業報告会の開催

今年度は補助期間の最終年次に当たるので、2年半にわたって展開してきた「岡山オルガノン」の構築事業の取組について一区切りをつけるため、全連携校より本事業に対する成果と今後の課題について報告していただくことを目的とした「岡山オルガノン事業報告会」の開催を計画した。

本報告会は、平成23年12月3日（土）13時から16時10分、岡山理科大学第25号館8階理大ホールにて開催した。当日は、連携校の教職員・学生、一般の方々を含めて110名の参加があり、各連携校の取組報告および基調講演に対する熱心な質疑応答もあり、盛会であった。

参加方法については参加費無料、事前申込不要、どなたでも参加可能とし、岡山オルガノン公式ホームページ上で案内を掲載するとともに、ちらし・ポスターを作成して連携校および各関係機関に配布し、広範な広報活動を行った。また、メールマガジン「岡山オルガノン通信」にも掲載し、広く参加を呼びかけた。しかし、年末の土曜日という日程の影響を受け、当初想定していたほどの参加人数ではなかったことが反省点として残った。

報告会ではまず、事業推進代表者である岡山理科大学 波田善夫学長から2年半に及ぶ取組に対する各連携校の協力体制について労いのあいさつがあり、続いて文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長 樋口聰氏より「社会の中の大学」と題した基調講演があった。樋口氏より、昨今の大きく変化している我が国の高等教育の抱える諸問題の提起と、この解決へ向けた文部科学省の政策報告が行われた。その後、本事業に連携している15大学の取組担当者より各大学での事業取組に関する報告が行われた。15大学という大規模な連携事業であるため、各大学の持ち時間を大幅に縮小せざるを得なかったが、それでも各大学が抱える課題等についての熱心な議論が行われ、今後の本事業の継承および展開に向けた有益な場を持つことができた。ただ、時間的な余裕がなかったため、コアとなる大学教育連携センターおよび3サテライトオフィスの取組報告ができず、参加者アンケートには各大学の報告以外にオルガノンとしての総合的な取組についての報告が聞きたかったという指摘もあった。

本事業を通じて、岡山県内にある大学が連携することの意義を再認識することができ、さらに、地域との連携を今後強固にすることで、大学が社会の中で果たす役割について連携校間で共有することができた。また、本事業における今後の課題が明確となり、将来へ向かってさらに実質的な事業展開を実施するための方向性を見出すことができた。

これにより、各連携校の構成員はじめ、地域住民や全国大学関係者から、本取組に対して広く理解を得ることができ、本取組の成果や課題を活かして、地域の大学改革の推進を図ることができると考える。

1. 大学教育連携センター

岡山オルガノン事業報告会

「連携校による岡山オルガノンの構築を目指した事業取組」

(1) 開会挨拶

岡山理科大学 波田 善夫 学長（岡山オルガノン事業推進代表者）

(2) 基調講演

「社会の中の大学」（文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長 樋口 聡 氏）

(3) 各連携校報告（「岡山オルガノン」事業への取組）

報告者：岡山大学 岡山オルガノン岡山大学オフィス コーディネーター 遠山 和大 助教

岡山県立大学 全学教育研究機構長 桂 宥子 教授

岡山学院大学 人間生活学部 友近 健一 教授

岡山商科大学 副学長 大崎 紘一 教授

岡山理科大学 岡山オルガノン 大学教育連携センター長 木村 宏 教授

川崎医科大学 学長補佐 大槻 剛巳 教授

川崎医療福祉大学 学長補佐 金光 義弘 教授

環太平洋大学 副学長 中原 忠男 教授

吉備国際大学 環境経営学部長 井勝 久喜 教授

倉敷芸術科学大学 産業科学技術学部 村山 公保 教授

くらしき作陽大学 学生部長 加藤 充美 教授

山陽学園大学 総合人間学部 澁谷 俊彦 教授

就実大学 人文科学部 土井 通弘 教授

中国学園大学 地域連携センター所長・学長補佐 飯田 哲司 教授

ノートルダム清心女子大学 人間生活学部 加藤 正春 教授

(4) 閉会挨拶

岡山商科大学 井尻 昭夫 学長（大学コンソーシアム岡山会長）



基調講演



各連携校報告

1. 大学教育連携センター

4 岡山オルガノン代表者委員会について

平成23年12月6日（火）の13時から14時30分まで、岡山商科大学の井尻記念館4階多目的ホールにて第2回岡山オルガノン代表者委員会が開催された。

以下は、第2回岡山オルガノン代表者委員会の主な報告および審議事項である。

まず、次の3点の報告があった。

- (1) 平成23年度の岡山オルガノン実施事業10項目について、大学教育連携センターおよび各事業担当オフィスより報告された。
- (2) 本事業の継承案を審議した将来構想委員会の審議経過（8回分）および審議結果について報告された。
- (3) 本事業で実施した遠隔教育について、報告された。ライブ型遠隔講義については、2年間で47名の学生が受講した。VOD型遠隔講義については、平成22年後期より授業を開始し、2年間で計18科目のコンテンツを作成し、591名の学生が受講したことが報告された。

審議事項としては、将来構想委員会の結論を受けて大学コンソーシアム岡山へのオルガノン事業継承について審議し、以下の点を大学コンソーシアム岡山へ提案することが了承された。

- (1) 継承組織としては、岡山オルガノンの6委員会を3委員会に集約する。
- (2) 「岡山オルガノン」の名称を残す。
- (3) 連携校15大学が、事業推進費として新たに年間総額約400万円を負担する。その負担割合は一律15万円+在学学部生数当50円とする。
- (4) (3)とは別に、遠隔教育システムの維持費として、各連携校が年間約35万円を負担する。
- (5) 以上の事項は今後3年間を目途とし、それ以降は3年目に再検討する。

その他、今年度の残りの事業について案内が行われた。



岡山オルガノン代表者委員会

平成24年3月12日（月）の15時から16時30分まで、岡山理科大学の50周年記念館3階会議室にて第3回岡山オルガノン代表者委員会が開催された。

以下、第3回岡山オルガノン代表者委員会の主な報告および審議事項である。

まず、次の4点の報告があった。

- (1) 第3回連携評価委員会の評価結果、および平成23年度の後期遠隔授業アンケート調査結果について、大学教育連携センターより報告された。
- (2) 各オフィスより以下の3点が報告された。
 - ①岡山大学オフィスより、平成24年度単位互換科目(ライブ・VOD)、および履修生募集について報告された。
 - ②岡山商科大学オフィスより、山陽新聞紙上への岡山オルガノン広告掲載について報告された。

1. 大学教育連携センター

③中国学園大学オフィスより、実践的体験型プログラムの実施報告（追加分及び来年度分含む）について報告された。

(3) 将来構想委員会の検討結果、および大学コンソーシアム岡山代表者会議の審議結果に基づき、大学コンソーシアム岡山のオルガノン事業の継承方法、および平成24年度以降の事業展開について、大学教育連携センターより報告された。

(4) 平成23年度実績報告書の修正・確認事項に向けた準備について、大学教育連携センターより依頼された。

続いて、審議事項として、著作権関連規程等について、学習管理システム利用規約(案)、コンテンツ制作ガイドライン(案)、コンテンツ利用申請書、コンテンツ利用に関する承諾書(受講生用、担当講師用、e-ラーニング専門員用)、コンテンツ利用に伴う処理に関する内規等について、大学教育連携センターより提案され、了解された。

5 第3回岡山オルガノン連携評価委員会について

平成24年1月20日（金）の14時30分から16時30分まで、岡山理科大学第9号館3階の大会議室にて第3回連携評価委員会が開催された。

最初に、岡山理科大学学長 波田善夫氏より開会の挨拶があり、その後、委員の自己紹介と委員長の選出が行われ、委員長として波田善夫氏が選出された。

次に、大学教育連携センター長の木村宏氏より、本連携取組事業説明について説明が行われた。

この後、平成23年度連携取組内容および3年間の成果報告として、以下の4点の報告があった。

(1) 共通計画について、大学教育連携センター長の木村宏氏より、以下の7点の報告があった。

- ①大学教育連携センターおよび各オフィスの運営
- ②「将来構想委員会」の開催
- ③「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ④「岡山オルガノン事業報告会」の開催
- ⑤平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」への参加（実施せず）
- ⑥「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成
- ⑦新規VOD科目のコンテンツ制作、8月～9月にICT活用教材作成講習会の実施

(2) 学士力育成のための取組について、岡山大学オフィスコーディネーターの遠山和大氏より、以下の4点について報告があった。

- ①単位互換制度を活用した配信科目の追加検討・協議・決定
- ②独自の共同SD研修会「クレイマー対策講座」を実施
- ③FD研修事業「i*See2011」の共催
- ④「共同FD・SD実施報告会」（遠隔授業による成果報告を含む）の開催

(3) 社会人基礎力育成のための取組について、中国学園大学オフィス代表の飯田哲司氏より、以下の4点について報告があった。

- ①連携校および高校（高大連携）への出張講義の実施<実践的キャリア指導チームの強化充実>

1. 大学教育連携センター

②学生参画によるキャリア教育担当者意見交換会（ワークショップ）の開催

③「実践マナー&ビジネスマインド短期集中講座」の実施

④「社会人基礎力養成シンポジウム」の開催

（4）地域発信力育成のための取組について、岡山商科大学オフィス室長の大崎紘一氏より、以下の3点について報告があった。

①双方向ライブ型方式による遠隔授業の継続配信

②「大学連携による地域活性化シンポジウム」の開催

③「エコナイト」の開催

（5）平成24年度以降の将来構想について、大学教育連携センター長の木村宏氏より報告があった。

この後、会場より質疑応答が行われ、今後の岡山オルガノンの事業継承や今回の連携評価は、文部科学省の補助期間が最終年度でもあるため、自己評価を実施してはいかがか等、熱心な討議が行われた。



第3回岡山オルガノン連携評価委員会

6

e-Learning 運営委員会について

平成24年2月27日（月）の13時から16時30分まで、岡山科大学第27号館2階セミナー室にて第2回 e-Learning 運営委員会が開催された。

以下に報告および審議事項を示す。

最初に、以下の2点の報告があった。

（1）遠隔教育について

①平成22年度および平成23年度遠隔科目履修者数と単位履修率について

表1-5より、平成22年度前期のライブ配信大学の受講者数は4名で、全員が単位修得している。また、平成22年度の後期ライブ配信大学の受講者数は16名で、単位修得者数が9名で、単位修得率は、56.3%である。また、VOD配信大学の受講者数は178名で、単位修得者数は142名で、単位修得率は79.8%である。平成22年度全体では、受講者数は198名で、単位修得者数は155名で、単位修得率は78.3%である。

1. 大学教育連携センター

表 1-5 平成22年度遠隔科目履修者数と単位履修率について

期	区分	配信大学	科目名	受講者数	単位修得者数	単位修得率(%)
前期	ライブ	岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅰ	3	3	100
		川崎医科大学	基礎環境医学	1	1	100
		ライブ合計		4	4	100
後期	ライブ	岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅱ	5	3	60
		倉敷芸術科学大学	倉敷まちづくり基礎論	7	3	42.9
			倉敷まちづくり実践論	4	3	75
		ライブ合計		16	9	56.3
	VOD	岡山理科大学	アルゴリズム入門	8	5	62.5
		吉備国際大学	スポーツ産業論	53	45	84.9
		川崎医療福祉大学	睡眠学	117	92	78.6
		VOD 合計		178	142	79.8
平成22年後期合計				194	151	77.8
				198	155	78.3

表 1-6 平成23年度遠隔科目履修者数と単位履修率について

期	区分	配信大学	科目名	受講者数	単位修得者数	単位修得率(%)
前期	ライブ	岡山大学	大学と社会	4	4	100
		岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅰ	0	0	0
		川崎医科大学	個人・社会と医療考	2	2	100
		川崎医療福祉大学	哲学	0	0	0
		倉敷芸術科学大学	倉敷まちづくり基礎論	2	2	100
			まちづくりインターンシップ	2	2	100
		くらしき作陽大学	特別支援教育総論	1	1	100
		ライブ合計		11	11	100
	VOD	岡山県立大学	解析学Ⅰ	7	1	14.3
		岡山理科大学	環境と社会	25	13	52.0
			インターネット入門	9	2	22.2
			アルゴリズム入門	7	1	14.3
		くらしき作陽大学	音楽療法概論	33	13	39.4
			食心理学	37	27	73.0
VOD 合計		118	57	48.3		
				129	68	52.7

1. 大学教育連携センター

表1-6より平成23年度前期のライブ配信大学の受講者数は11名で、全員が単位修得している。また、平成23年度の後期VOD配信大学の受講者数は118名で、単位修得者数は57名で、単位修得率は48.3%である。平成23年度全体では、受講者数は129名で、単位修得者数は68名で、単位修得率は52.7%である。

②平成23年度後期遠隔科目授業アンケート調査結果について

『岡山オルガノン』の構築」事業では、連携する15大学間において教育を共有する事業として、ライブ型およびVOD（Video On Demand）型のe-Learning教育を実現すべく、平成21年度より検討を開始し、平成22年度に試行実施し、平成23年度に本格的な配信を行った。遠隔授業の効果や問題点を把握するために、指導教員や受講学生を対象としたアンケート調査を実施した。

ライブ方式による遠隔授業に関する学生アンケート調査では、学生からの回答者数が297名で、その内、受信大学の学生が15名、配信大学の学生が282名である。

岡山オルガノン科目については、多くの学生がパンフレットやポスター、教職員および友人により知ったと回答している。また、アンケートの各項目については前向きな回答が多く見受けられた。また、ライブ担当の教員については、対象者数が4名で、アンケート項目のすべてにおいて、満足していると回答している。

一方、VOD型遠隔授業アンケート調査では、学生からの回答者数が96である。アンケート調査項目の中で、どこで主にビデオ教材を受講したのかの問いに対して、自宅が73%で最も多く、次いで学校が17%、学校と自宅が10%である。また、まなびオルガノンを受講する際に使用したブラウザは何を利用したかの問いに対しては、インターネットエクスプローラーが40%で最も多い。さらに、どこで岡山オルガノン科目を知りましたかの問いに対しては、パンフレットが52%で最も多く、次いで友人よりが29%、教職員よりが17%、ポスターが15%、ウェブサイトが7%である。VOD型遠隔授業アンケート調査で教員からの回答者数は4で、各アンケート項目についてはすべての項目について肯定的な回答である。

(2) 単位互換科目遠隔科目について

平成24年度のライブ配信科目は、前期7科目、後期6科目である。岡山大学では「テレビゲームからみる情報科学概論」（前期）、川崎医科大学では「健康と素因・環境そして生活(リベラルアーツ選択Ⅱ)」(1学期前期)が新たに配信される。また、平成24年度VOD配信科目は、前期7科目、後期15科目である。平成24年度において、岡山大学では、「実践パーソナルコンピューティング入門」（前期）、「学習支援システム概論」（後期）、岡山学院大学では「食に関する健康学」（後期）、岡山理科大学では「岡山学」（後期）、川崎医科大学では「健康と素因・環境そして生活(リベラルアーツ選択Ⅱ)」が新たな科目として配信される。くらしき作陽大学の音楽療法概論は、担当者の都合により平成24年度は配信しない。

次に、平成25年度のVOD新規配信科目予定として、吉備国際大学では3科目、「スポーツ社会学」、



第2回 e-Learning 運営委員会

1. 大学教育連携センター

「土壌環境論」、「認知心理学」、ノートルダム清心女子大学では1科目、「オリエント考古学への招待」が配信される。

平成24年度単位互換履修生募集パンフレットは、平成24年度単位互換ライブ、VODの紹介と岡山オルガノンの概要説明を掲載する。

次に、審議事項として下記の2点について協議した。

(1) 平成24年度以降の事業継承について

岡山オルガノンの事業は、平成24年度以降、大学コンソーシアム岡山に事業継承されることを前提として開始した。そのため、平成23年度に入って検討を続けてきた将来構想委員会、および継承側である大学コンソーシアム岡山の企画会議や運営委員会における審議状況および審議結果の報告が最初に行われた。本委員会に関わりのある以下の3点を中心に報告と提案が行われた。

- ① 継承される事業の中で最重要項目として、遠隔教育方式による教育の共有化が決まったこと。
- ② VOD型遠隔教育システムとして、「まなびオルガノン」を継続使用すること。システムの維持にかかる経費は連携大学が負担し、岡山オルガノンの予算規模を維持すること。
- ③ 大学コンソーシアム岡山における事業推進組織として、新たに各種の委員会を設置し、委員会主導で事業展開を図ること。特に、本委員会と双方向コンテンツ委員会を統合し、新たに「対面・遠隔講義委員会」を設置するので、各連携校では本委員会および双方向コンテンツ委員会の委員の方を中心に人選をお願いしたいと考えている。

審議の結果、本提案が承認された。

(2) e-Learningに関わる著作権関連規程等について

懸案となっていたVOD型遠隔教育コンテンツに関わる著作権関連規程について、これまでの本委員会における検討結果を受けて、平成24年度以降の事業継承後の新体制下における、著作権関連規程の原案が提案され、審議された。

岡山オルガノンの著作権関連規程として検討していたものをベースにし、現段階で配慮すべき諸点を盛り込んだ以下の規程類が提案された。

- ① 岡山オルガノン（大学コンソーシアム岡山）におけるVODコンテンツに関する権利処理の流れ（案）
図1-2に示した。
- ② コンテンツ利用許諾契約書（案）
著作権者（職務著作に関して法人著作制度が確立している大学においては当該法人、そうでない場合は当該コンテンツを用いた講義を担当する教員）と、VODコンテンツを管理運用する大学コンソーシアム岡山（具体的には、代表者である会長）とのVODコンテンツの利用に関する独占的利用許諾契約書である。
- ③ コンテンツ利用に関する承諾書
VOD型遠隔講義を受講する学生が有する著作権（受講生が作成したレポートや発表などの著作物）、ビデオ映像に映り込んだ学生の肖像権などに関し、これらを含んだコンテンツを講義で使用することの承諾書である。
- ④ 学習管理システム利用規約（案）

1. 大学教育連携センター

学習管理システムに関わって、これの利用者および管理者が遵守すべき事項を明記した利用規約である。特に、受講生が学習管理システムを用いてコンテンツ利用を行う際の注意事項を含む規約となっている。

⑤ コンテンツ制作ガイドライン（案）

VODコンテンツの作成に当たる大学コンソーシアム岡山の職員が守るべき指針を明記したものである。また、本事業で制作したVODコンテンツを、大学コンソーシアム岡山の遠隔講義以外で使用したいと希望する教職員の利用方法についても規定している。

⑥ コンテンツ利用申請書

⑤の利用に関わる申請書の様式である。

⑦ 同意書（案）

VODコンテンツの制作に当たる職員等が有する職務上の制作物に関する著作権を大学コンソーシアム岡山会長に委譲するなどの事項への同意書様式である。

以上の提案に対し、一部の修正を加えたうえで、了承された。なお、不足する規程としては、担当教員の都合によりVODコンテンツの提供が不可能になった場合、当該著作物の廃棄等の処理を規定した内規を追加することになった。

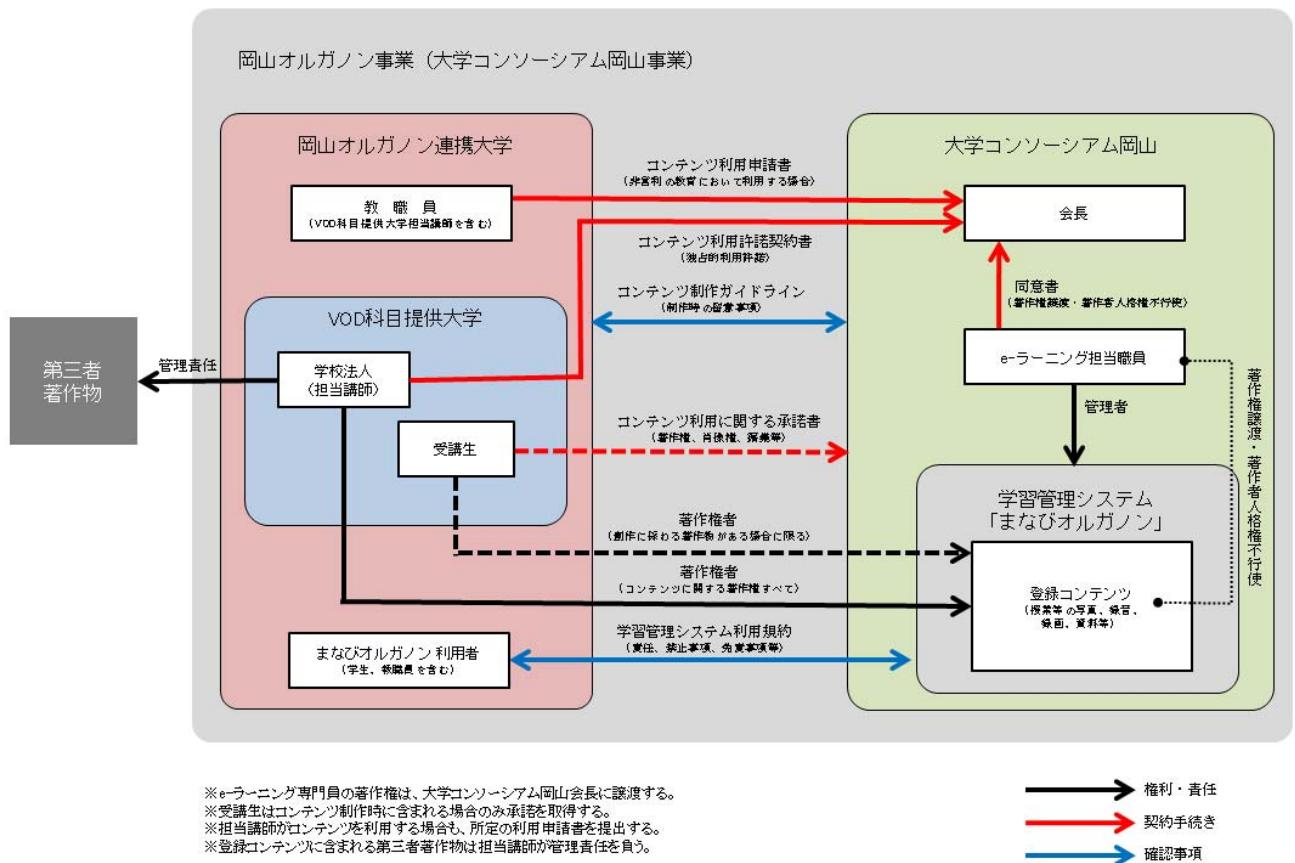


図1-2 岡山オルガノン（大学コンソーシアム岡山）におけるVODコンテンツに関する権利処理の流れ（案）

岡山大学オフィス

岡山大学オフィス

1

大学連携による遠隔授業とFD・SDに関するシンポジウムの実施

平成23年10月30日（日）に、「大学連携による遠隔授業とFD・SDに関するシンポジウム」と題し、岡山オルガノンの大学連携事業でこれまでに行ってきた、様々な形態による遠隔授業の実施状況を振り返り、講演者・報告者・参加者の意見交換や議論を通して、遠隔授業の特長と魅力を広く公開するイベントを開催した。一般市民・教職員・学生・連携校関係者など、116名の参加を得ることができた。

第1部の基調講演では、「遠隔授業の双方向性と学生の学習意欲」というテーマで金沢大学教授の青野透氏を講師に、クリッカーを使用した独自の講義スタイルやインターネットを利用した教員、学生間のコミュニケーションの重要性、活用の有効性等について講演をいただいた。第2部の事例報告では、「様々な授業形態から効果的な授業を考える」というテーマで、対面型・双方向ライブ型・VOD型授業を担当した連携校の教員による発表が行われ、各授業方式における教育の質向上に果たす役割や具体的な活用等の報告を受けた。また、これらの報告を踏まえ、会場の参加者も交えたフロアディスカッションも行われた。

参加者によるアンケートの回答では、「教員がどのように授業を考えているのかを知れてよかった」、「FDの手法が理解できた」、「eラーニングの導入を検討している為大変参考になった」等の貴重な意見や感想をいただいた。



基調講演



事例報告



フロアディスカッション

2

学士課程教育連携委員会

平成23年度の学士課程教育連携委員会では、来年度以降のライブ配信・VOD配信による単位互換科目の継続的な実施を行う上での課題について検討を行った。前期に実施された「授業科目に関するアンケート」の結果も参考にして、各大学の特色を活かした科目を提供してもらうよう、各大学に対して依頼を行うとともに、可能な限り各大学が共通の時間帯（前年度に定めた、どの大学の授業時間とも極力重ならない「ライ

2. 岡山大学オフィス

ブ科目授業のための専用時間（オルガノン時間）」でオルガノン科目の授業を行うことも確認した。

また、来年度は大学コンソーシアム岡山への合流が決まっているが、これまでオルガノンが提供してきた科目については、その授業形態の特質も考慮し、来年度一年間は従来どおり「オルガノン科目」として履修生を募集し、科目を提供することとなった。再来年度以降、大学コンソーシアム岡山の科目として、どのような形態で科目提供して行くか、来年度中に結論を出す必要がある。

中国学園大学オフィス

中国学園大学オフィス

1

ビジネスマインド集中講座

平成23年度にあらたに作成した「実践的・体験型プログラム」を「一日集中講義」形式にて実施した。今回の講義で強化したポイントは、企業の人事教育担当者との意見交換会の場で指摘された4つの能力の習得であり、グループワークのスタイルでの訓練メニューとして提供した。

* 4つの能力 - 「①課題解決力」、「②アウトプット力」、「③チームワーク力」、「④修整能力」

■日時：平成23年11月27日（日） 12:30～17:00

■場所：中国学園大学 図書館3階 L309講義室

■内容：【第1部】 「社会人基礎力養成講座」 オルガノン 桑田朋美講師

- ・自分と向き合う ～やる気の醸成
- ・印象マネジメント
- ・自分を認め活かすために

【第2部】 「戦略・戦術ノウハウ講座」 オルガノン 松田周司講師

- ・問題解決の技法（実践課題解決ワーク）
- ・戦略的思考の道具

【第3部】 「質問力アップ講座」 オルガノン 上村明子講師

- ・質問ノウハウと効果的テクニック
- ・魅力アップの話法レッスン

・受講学生数：第1部 22人、第2部 23人、第3部 21人

・受講大学名：岡山大学、岡山県立大学、岡山商科大学、就実大学、ノートルダム清心女子大学、中国短期大学 +社会人（高校教員、企業の教育担当者）

・特記事項：講座の開催案内と同時に定員（40名）オーバーとなったため、45名超の受講申し込みがあった中国短期大学に対しては、別途3講義を実施することとした（12月・1月に実施）

3. 中国学園大学オフィス



岡山オルガノン
岡山オルガノン

ビジネスマインド集中講座

■ 日時：2011年11月27日(日) 12:30~17:00
■ 場所：中国学園大学 図書館1309号室
■ 対象：岡山県内の大学生・短大生・大学2年生(学年不同)

【第1部】「社会人基礎力養成講座」 12:30~13:50
講師) 桑田 須美 社会保険労務士
岡山オルガノン社会人基礎力養成講師チーム

【第2部】「戦略・技術ノウハウ養成講座」 14:00~15:20
講師) 松田 健司 中小企業診断士・経営コンサルタント
岡山オルガノン社会人基礎力養成講師チーム

【第3部】「実習力アップ講座」 15:40~17:00
講師) 上村 明子 社会保険労務士
岡山オルガノン社会人基礎力養成講師チーム
元 KSB 島アウンラー

【受講無料・申し込み不要】

「社会人基礎力養成」プログラムを<短期集中講座>で実施！

実践的な能力アップを欲しい学生に最適です。
企業内研修の内容・ワークも盛り込み提供します。

キャリア形成講座の修了生も、現役生も、
初めての人も、ふるって参加ください！

■提供：岡山オルガノン 中国学園大学オフィス
社会人基礎力養成講師チーム

写真：ビジネスマインド集中講座

2

社会人基礎力養成シンポジウム

平成22年度と同様、学生・社会人交流スタイルによる「社会人基礎力養成シンポジウム」を開催した。
平成23年度は、あらたに「リーダー社員によるパネルディスカッション」も追加導入し、3部構成にて、
実社会の現場でいかに社会人基礎力が求められ活かされているかを考える場とした。

■ 日時：平成23年12月11日(日) 13:00~17:00

■ 場所：中国学園大学 12号館 M301教室 (大ホール)

■ 内容：【第1部】 講演 「現場で求められる社会人基礎力とは」
講師：飯田哲司 (岡山オルガノン 中国学園大学オフィス代表)
テーマ：
・基礎力を発揮するために
・行動を「力」に変える
・目標と現状のギャップを埋める行動と目標設定

【第2部】 パネルディスカッション① 「若手社会人の体験談報告」
パネラー：若手社会人3名 (キャリア形成講座修了生、入社2~3年目)

3. 中国学園大学オフィス

コーディネーター： 飯田哲司（岡山オルガノン）

テーマ： ・実社会で大切にしている「基礎力」

- ・学生と社会人の違い
- ・自分を変えた出来事・言葉
- ・学生たちに贈る言葉（エール）

【第3部】 パネルディスカッション② 「リーダー社員からのメッセージ」

パネラー： リーダー職社員 4名（営業、事務推進、経営戦略、人事）

コーディネーター： 飯田哲司（岡山オルガノン）

テーマ： ・「主体性」 ・「課題発見力」 ・「傾聴力」

- ・ポジティブ思考力を高める
- ・ゆとり世代を鍛え活かす
- ・現場のチームワーク力とは
- ・社外ネットワークを広げるために

- ・参加者数： 189名（学生132名、大学教職員24名、一般および高校教員33名）
- ・参加大学： 岡山大学、岡山県立大学、岡山理科大学、くらしき作陽大学、ノートルダム清心女子大学、中国学園大学 + 中国短期大学、香川大学

ワーキング・意見交換会で情報収集した企業の具体的な事例を取り上げ、現場で直面する課題にどう向き合いどう取り組むか、その対応と解決策について、共に考えることをテーマとした3部構成にした。

第1部講演で「社会人基礎力」を高めるヒントと行動指針を提示し、第2部では若手社会人の実体験談からその現実行動と心情変化を伝え、第3部のリーダー社員からは学生への厳しくあたたかいエールがシャープに贈られ、シンポジウム全体を通じて、現実的かつ実践的な「学生・社会人交流型イベント」となった。

大学生・大学教職員に加えて、一般企業の社員、高校教員、キャリア教育事業者の参加も見られ、シンポジウム終了後に意見交換会の場を持つこともできた。今後もこうした関係者への広がりを活かして、学生と社会人の交流機会を創出し、実践的な社会人基礎力養成事業を推進してゆきたい。



3. 中国学園大学オフィス



写真：社会人基礎力養成シンポジウム

3 ワーキング・意見交換会の実施

共同研究・共同検討のために、委員会に代わり実施した「ワーキング・意見交換会」の実施テーマと実施回数集計を記す。平成22年度は月2回、平成23年度は月1回のペースで開催した。

(各ワーキングの実施日・対象者・場所・参加人数は、委員会の項に別表資料にて示す)

- ワーキングのテーマ： ①学生や社会が望む「キャリア形成教育とは」
- ②実践的場面で活かされる「社会人基礎力」とは

■ワーキングの実施回数（集計）

対象者	平成22年度	平成23年度	計（実施回数）
キャリア講座 現役受講生	4	2	6
“ “ 受講経験者（現 学生）	9	6	15
“ “ 受講経験者（社会人）	4	4	8
大学の教職員・高校のキャリア担当者	5	3	8
企業の人事教育担当者	3	4	7
計	25	19	44

3. 中国学園大学オフィス



写真：ワーキング

岡山商科大学オフィス

岡山商科大学オフィス

1

双方向コンテンツ委員会の活動

平成23年10月1日から平成24年3月6日までの「第5章 地域発信力育成のための取組 第2節 双方向コンテンツ委員会の活動」の報告は、以下のとおりである。

(1) 平成23年度 第2回 双方向コンテンツ委員会

平成23年11月25日（金）に第2回の双方向コンテンツ委員会を開催し、以下の3議題について議論した。

議題1 平成24年度双方向ライブ型遠隔科目の提供について

議題2 平成24年度双方向ライブ型遠隔科目の大学コンソーシアム岡山の単位互換科目として業務の一元化について

議題3 平成24年度以降の双方向ライブ型遠隔講義システムの運用について

① 議題1について、大崎 紘一委員長より平成22年度および平成23年度の科目・受講者について説明を行い、平成24年度について補助金の趣旨から本事業を継続していく必要があり来年度についても同様に双方向ライブ型遠隔科目の提供について確認を行った。

各双方向コンテンツ委員会運営委員より、「双方向ライブ型遠隔科目からVOD型遠隔科目に変更になる可能性がある」、「VOD型遠隔科目は大丈夫ではないか、双方向ライブ型遠隔科目は学内で適したものがあるか、どちらとも持ち帰り検討を行う。」、「来年度も同じ先生でつづけていきたい。」、「まだ大学の方針として確定していないが、ライブ科目の教育効果が定かでないこと、時間割の問題から受講者数も少なかったことなどの課題がある。」等の意見があった。

これまでの状況を踏まえて来年度の科目提供について各大学で検討することとなった。

② 議題2について、大崎 紘一委員長より、単位互換科目としての業務の一元化について説明があった。多数の委員の意見では、効率性を考慮して一本化することに賛成であったので、一本化に向けて調整を行っていくこととなった。

また、大崎 紘一委員長より、双方向ライブ型遠隔科目と履修生増加の必要性、非常勤講師における開講科目への活用の検討、特定の曜日時間として双方向ライブ型遠隔講義を各大学の時間割の中に空けることが検討された。また、非常勤講師による開講科目への活用、講義時間の統一（曜日限定、夕方の時間帯、土曜日など）が実現すれば双方向ライブ型遠隔科目の充実と履修生の増加につながるの今後継続して検討することとなった。また、会議や打ち合わせ、シンポジウム、学生交流活動等に有効に活用することの提案もなされた。

4. 岡山商科大学オフィス

れた。

③ 平成24年度以降の運用のために、平成22年度および平成23年度前期に双方向ライブ型遠隔講義を配信した大学から、他大学の科目履修生の単位修得者数について報告がなされた（表1、表2）。今後も科目の開発及び履修生数の増加に向けて、取り組んでいくことが大筋で承認された。

表1 平成22年度双方向ライブ型遠隔講義 履修者数と単位修得者数

開講期	No	配信大学	科目名	単位修得者数／履修者数	
前期	1	岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅰ	3／3	4／4
	2	川崎医科大学	基礎環境医学	1／1	
後期	1	岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅱ	3／5	9／16
	2	倉敷芸術科学大学	倉敷まちづくり基礎論	3／7	
	3		倉敷まちづくり実践論	3／4	
合計				13／20	

表2 平成23年度双方向ライブ型遠隔講義 履修者数と単位修得者数

開講期	No	配信大学	科目名	単位修得者数／履修者数	
前期	1	岡山大学	大学と社会	4／4	11／11
	2	岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅰ	0／0	
	3	川崎医科大学	個人・社会と医療考	2／2	
	4	川崎医療福祉大学	哲学	0／0	
	5	倉敷芸術科学大学	倉敷まちづくり基礎論	2／2	
	6		まちづくりインターンシップ	2／2	
	7	くらしき作陽大学	特別支援教育総論	1／1	
後期	1	岡山県立大学	音楽の鑑賞	3／3	16／16
	2	岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅱ	2／2	
	3	岡山理科大学	岡山の学	0／0	
	4	環太平洋大学	スポーツ栄養学	7／7	
	5	倉敷芸術科学大学	倉敷まちづくり実践論	2／2	
	6	山陽学園大学	宗教思想	2／2	
	7	中国学園大学	現代子ども学入門	0／0	
合計				27／27	

(2) 平成23年度 第3回 双方向コンテンツ委員会

平成24年2月14日(火)に第3回の双方向コンテンツ委員会を開催し、以下の3議題について議論した。

4. 岡山商科大学オフィス

- 議題 1 平成 24 年度双方向ライブ型遠隔科目の提供について
- 議題 2 平成 24 年度以降の双方向ライブ型遠隔講義システムの運用について
 - 1) テレビ会議システムの活用方法
 - 2) 平成 24 年度以降の双方向ライブ型遠隔講義の運用
- 議題 3 その他
 - 1) 大学コンソーシアム岡山の委員会委員
 - 2) 平成 23 年度後期双方向ライブ型遠隔講義に関する調査結果

① 議題 1 について、大崎 紘一委員長より 1 月 20 日に開催された大学コンソーシアム岡山代表者会議にて、来年度より本事業の大半が大学コンソーシアム岡山に継承されることが決定した旨の説明がなされた。本委員会は来年度より、対面・遠隔講義委員会に継承され、VODとライブを併せて検討していくこととなり、今後の協力を要請した。文部科学省が次の予算計上を行っており、今後の補助金も視野に入れていきたいとの説明があった。

平成 24 年度双方向ライブ型遠隔科目の提供について、前期は 5 大学から 7 科目の提供があり、岡山大学、くらしき作陽大学の科目はオルガノン時間で開講する。後期は 6 大学から 6 科目の提供があり、岡山県立大学はオルガノン時間で開講する。

パンフレットの作成について、平成 24 年度も学生に講義内容を明記できるように岡山大学でパンフレットの準備をしている。新学期に向けて配布するために、協力を要請した。

履修者数と単位修得者数について、平成 22 年度は 20 名が履修し、13 名が単位を修得した。平成 23 年度は 11 名が履修し、全員が単位を修得した。平成 23 年度後期は 27 名が履修し、27 名全員が単位を修得した（表 2）。

② 議題 2 について、大崎 紘一委員長より平成 24 年度以降の双方向ライブ型遠隔講義システムの運用について、テレビ会議システムの他の利用方法として、会議、打ち合わせへの活用、シンポジウム等への活用、学生交流活動等提案がなされた。

単位互換授業について、履修生増加、操作する者の育成、今後大学職員やTAを使っていく必要性、教員が使用するための使用上の簡易性における仕組み作りを検討していく必要がある。また、FDとの関連性における実施や非常勤科目としての活用について提案がなされた。

講義時間の 16 大学統一は難しいため、開講日について、現在のオルガノン時間による運用の他、曜日の限定をすることも考えられる。

テレビ会議システムの保守等について、1 月 20 日の大学コンソーシアム岡山代表者会議において、各大学で保守サポートをお願いすることとされた。

多地点接続装置について、岡山理科大学（大学教育連携センター）に設置され、管理されている。参画する教職員の負担について、今までは岡山商科大学オフィスでサポートしてきたが、今後は各大学の職員で運

4. 岡山商科大学オフィス

用できるように移行していくこととなり、システムの簡単な運用方法を模索していく必要があることが述べられた。

(3) シンポジウムの参加について

① 「e-Learning Awards 2011」

平成23年11月22日(火)に秋葉原UDX(東京都千代田区外神田)で「e-Learning Awards 2011」が開催され、出席した。本シンポジウムでは、平成23年11月21日～22日の2日間にわたり30団体による「第8回日本 e-Learning 大賞」表彰式と受賞者による講演および16団体によるブース展示が行われた。

発表者の(株)デジタル・エデュケーショナル・サポート eラーニング推進センターは、「通学教育のIT活用ではさまざまなシステムが運用されているがトータルな形で連携し運用でき、可視化されるよう教育の質保証につなげていきたい。また通信、通学のいずれにおいても必要なコンテンツ、学習の場を提供できるよう発展させていきたい」と述べられた。

コンテンツ制作ツールやラーニング管理システムの汎用性が高いと、システム管理者およびユーザー(教職員および学生)の負担を軽減し、幅広く活用できる。岡山オルガノンで導入したソフトやシステムにおいても、末永く活用していくためには、使いやすい体制を構築していくことが必要である。

② 「国際シンポジウム2012『遠隔教育とeラーニングにおける学習評価』」

平成24年2月16日(木)に幕張メッセ国際会議場(千葉県千葉市美浜区若葉)で「国際シンポジウム2012『遠隔教育とeラーニングにおける学習評価』」が開催され、出席した。本シンポジウムでは、世界各国の発表者による遠隔教育とe-Learningにおける学習評価に関する発表とパネルディスカッションが行われた。

発表者の熊本大学 合田准教授は、「e-Learningは学生の自己調整スキルを開発し、促進する、優れた学習環境に成りうる」と述べられた。また、韓国放送通信大学校 ション教授は、「学習評価の質管理の対する体系的基盤が未だ未整備状態であるため、簡便かつ効率的な評価方法、基準の種類等統一ガイドラインを策定し、教員に提供する必要がある」と述べられた。そのような環境においても、教員やe-Learning専門家は、学生が意欲的に学習できるような学習評価の方法や課題について研究・開発し、実用的な支援を前向きに行っている。

以上のことは、岡山オルガノン e-learning システムを成功させるために、今後の取り組みの参考になる。また、岡山オルガノンの遠隔講義を履修する受講者数を増やすためには、学習内容や受講生にやる気を与えるための仕組み作りを促進し、継続率の向上と知識を身につけるといった質の保証につなげることを目指していく必要がある。

(4) 平成23年度 第3回 配信テストについて

平成23年2月13日(月)～3月23日(金)の期間、今年度第3回目の配信テスト月間を実施している。平成24年度に双方向ライブ型遠隔科目をテレビ会議システムで配

4. 岡山商科大学オフィス

信する大学が中心となり、通常の接続方式、およびMCU接続方式による機器操作の練習や配信講義のリハーサルなど、各大学における設置機器環境で動作確認を行っている。

ウェブサイトやパワーポイントから動画を再生し、配信するといった講義スタイルを予定している岡山大学は、3月2日（金）に受信大学11拠点と接続し、MCU接続方式にて配信テストを実施した。テレビ会議システムに周辺機器を接続し画像、動画、音声を配信した講義の通信状態は良好であり、スムーズな講義配信を確認することができた。

その他配信大学における機器のトラブルについて、テレビ会議システムのリモコンの故障、マイクによる音声トラブルにおけるミキサーの接続調整など対応が必要であったが、現時点で特に大きな問題はなく、来年度のスムーズな配信に向けて事前準備を遂行している。

（5）その他

双方向ライブ型遠隔講義アンケート集計結果

双方向ライブ型遠隔講義の評価を行うために、配信大学、受信大学の受講生にアンケート調査を実施し集計した。授業評価は、アンケートの9項目のそれぞれについて「良かった」、「おおむね良かった」の回答率で行った。

「授業の雰囲気」は、前・後期を合わせると配信大学76.3%、受信大学95.0%となり、配信大学でも良く、受信大学では更に良かったことが示された。通常の授業と比べての学習効果については、配信大学49.1%、受信大学70.0%となり、受信大学での受講者に対する授業の効果が高いことが示された。

「他大学と一緒に授業を受けての刺激」は、配信大学35.0%、受信大学55.0%であり、受信大学の方が刺激になっていることが示された。

配信大学の「教員のマイクの音量」は、配信大学77.2%、受信大学75.0%となり、いずれの大学でも適当であったことが示された。「プロジェクターの映像」は、配信大学64.4%、受信大学75.0%であり、受信大学の方が見やすい比率が高くなった。この理由としては、受信大学での受講者数が少なく、映像を近くで見ながら受講できたことによるものと考えられる。

「講義科目の認知」は、受信大学では、前期には我々の作成した「パンフレット」、「ポスター」、「ウェブサイト」で53.8%、後期は70.0%となり、これらの媒体を見て講義を受講するようになってきていることが推測できる。配信大学では、前・後期を合わせると上記3つの媒体では30.2%、教員からでは34.1%となり、教員から知らされるということの方が高いことが示された（表3）。

4. 岡山商科大学オフィス

表3 平成23年度双方向ライブ型遠隔講義アンケート集計結果

前期

設問 1. 授業の雰囲気はよかった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	63	54.31034
おおむねそうである	22	18.96552
どちらとも言えない	23	19.82759
あまりそうでない	4	3.448276
全く違う	4	3.448276
その他	0	0
合計	116	100

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	6	60
おおむねそうである	4	40
どちらとも言えない	0	0
あまりそうでない	0	0
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

「授業の雰囲気は良かった」かに関するアンケート結果では、「良かった」、「おおむね良かった」と回答した学生比率は、配信大学で76.3%、受信大学で95.0%となり、受信大学での雰囲気が良かったことが示された。

設問 2. 教員のマイク音量は適量であった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	55	47.41379
おおむねそうである	32	27.58621
どちらとも言えない	19	16.37931
あまりそうでない	6	5.172414
全く違う	4	3.448276
その他	0	0
合計	116	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	6	60
おおむねそうである	2	20
どちらとも言えない	2	20
あまりそうでない	0	0
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

「教員のマイクの音量は適量であった」かに対する回答は、配信大学77.2%、受信大学75.0%であり、いずれの教室でも適量であったことが示された。

4. 岡山商科大学オフィス

設問 3. 他大学からのマイク音量は適量であった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	19	16.37931
おおむねそうである	17	14.65517
どちらとも言えない	67	57.75862
あまりそうでない	10	8.62069
全く違う	3	2.586207
その他	0	0
合計	116	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	5	50
おおむねそうである	3	30
どちらとも言えない	2	20
あまりそうでない	0	0
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

設問 4. プロジェクターの映像は見やすかった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	31	26.72414
おおむねそうである	46	39.65517
どちらとも言えない	23	19.82759
あまりそうでない	10	8.62069
全く違う	6	5.172414
その他	0	0
合計	116	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	8	80
おおむねそうである	1	10
どちらとも言えない	1	10
あまりそうでない	0	0
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

「プロジェクターの映像の見やすさ」については、配信大学64.4%、受信大学75.0%であり、受信大学の方が高くなった。この理由としては、受信大学での受講者数が少なく、映像を近くで見ながら受講できたことによるものと考えられる。

設問 5. 他大学の受講生と一緒に受講して良い刺激になった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	14	12.06897
おおむねそうである	23	19.82759
どちらとも言えない	46	39.65517
あまりそうでない	19	16.37931
全く違う	14	12.06897
その他	0	0
合計	116	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	4	40
おおむねそうである	1	10
どちらとも言えない	5	50
あまりそうでない	0	0
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

4. 岡山商科大学オフィス

「他大学の受講生と一緒に受講して良い刺激になった」については、配信大学35.0%、受信大学55.0%であり、受信大学の方が刺激になっていることが示された。

設問 6. 他大学の受講生の態度や発言が気になった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	5	4.310345
おおむねそうである	2	1.724138
どちらとも言えない	57	49.13793
あまりそうでない	14	12.06897
全く違う	38	32.75862
その他	0	0
合計	116	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	1	10
おおむねそうである	4	40
どちらとも言えない	2	20
あまりそうでない	3	30
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

設問 7. 教員(TA)の機器操作はスムーズであった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	27	23.27586
おおむねそうである	37	31.89655
どちらとも言えない	30	25.86207
あまりそうでない	19	16.37931
全く違う	3	2.586207
その他	0	0
合計	116	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	3	30
おおむねそうである	3	30
どちらとも言えない	3	30
あまりそうでない	1	10
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

設問 8. 通常の授業とくらべて高い学習効果があった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	19	16.37931
おおむねそうである	17	14.65517
どちらとも言えない	51	43.96552
あまりそうでない	19	16.37931
全く違う	10	8.62069
その他	0	0
合計	116	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	4	40
おおむねそうである	3	30
どちらとも言えない	3	30
あまりそうでない	0	0
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

4. 岡山商科大学オフィス

「通常の授業とくらべて高い学習効果があった」かについては、配信大学49.1%、受信大学70.0%となり、受信大学での授業の効果があることが示された。

設問 9. どこで岡山オルガノン科目を知りましたか

配信大学

回答	実数	%
パンフレット	28	24.13793
ポスター	15	12.93103
ウェブサイト	4	3.448276
友人より	2	1.724138
教職員より	38	32.75862
その他	29	25
合計	116	

受信大学

回答	実数	%
パンフレット	4	30.76923
ポスター	2	15.38462
ウェブサイト	1	7.692308
友人より	2	15.38462
教職員より	3	23.07692
その他	1	7.692308
合計	13	

「講義科目の認知」については、受信大学では、前期には「パンフレット」、「ポスター」、「ウェブサイト」で53.8%、後期は70.0%となり、これらの媒体を見て講義を受講するようになってきていることが推測できる。

配信大学での認知は、上記3つの媒体では30.2%であり、教員からでは34.1%となり、教員から知られるという状況である

後 期

設問 1. 授業の雰囲気はよかった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	100	49.01961
おおむねそうである	59	28.92157
どちらとも言えない	19	9.313725
あまりそうでない	8	3.921569
全く違う	15	7.352941
その他	3	1.470588
合計	204	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	5	50
おおむねそうである	4	40
どちらとも言えない	1	10
あまりそうでない	0	0
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

4. 岡山商科大学オフィス

設問 2. 教員のマイク音量は適量であった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	112	54.90196
おおむねそうである	48	23.52941
どちらとも言えない	16	7.843137
あまりそうでない	5	2.45098
全く違う	21	10.29412
その他	2	0.980392
合計	204	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	1	10
おおむねそうである	6	60
どちらとも言えない	3	30
あまりそうでない	0	0
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

設問 3. 他大学からのマイク音量は適量であった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	75	36.76471
おおむねそうである	41	20.09804
どちらとも言えない	46	22.54902
あまりそうでない	14	6.862745
全く違う	14	6.862745
その他	14	6.862745
合計	204	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	3	30
おおむねそうである	5	50
どちらとも言えない	2	20
あまりそうでない	0	0
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

設問 4. プロジェクターの映像は見やすかった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	78	38.23529
おおむねそうである	51	25
どちらとも言えない	33	16.17647
あまりそうでない	22	10.78431
全く違う	16	7.843137
その他	4	1.960784
合計	204	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	0	0
おおむねそうである	6	60
どちらとも言えない	4	40
あまりそうでない	0	0
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

4. 岡山商科大学オフィス

設問 5. 他大学の受講生と一緒に受講して良い刺激になった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	38	18.62745
おおむねそうである	37	18.13725
どちらとも言えない	63	30.88235
あまりそうでない	28	13.72549
全く違う	29	14.21569
その他	9	4.411765
合計	204	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	2	20
おおむねそうである	4	40
どちらとも言えない	4	40
あまりそうでない	0	0
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

設問 6. 他大学の受講生の態度や発言が気になった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	32	15.68627
おおむねそうである	33	16.17647
どちらとも言えない	60	29.41176
あまりそうでない	21	10.29412
全く違う	54	26.47059
その他	4	1.960784
合計	204	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	0	0
おおむねそうである	1	10
どちらとも言えない	3	30
あまりそうでない	5	50
全く違う	1	10
その他	0	
合計	10	

設問 7. 教員(TA)の機器操作はスムーズであった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	89	43.62745
おおむねそうである	46	22.54902
どちらとも言えない	31	15.19608
あまりそうでない	14	6.862745
全く違う	17	8.333333
その他	7	3.431373
合計	204	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	2	20
おおむねそうである	2	20
どちらとも言えない	4	40
あまりそうでない	1	10
全く違う	1	10
その他	0	0
合計	10	

4. 岡山商科大学オフィス

設問 8. 通常の授業とくらべて高い学習効果があった

配信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	57	27.94118
おおむねそうである	64	31.37255
どちらとも言えない	38	18.62745
あまりそうでない	23	11.27451
全く違う	15	7.352941
その他	7	3.431373
合計	204	

受信大学

回答	実数	%
全くそのとおりである	4	40
おおむねそうである	3	30
どちらとも言えない	3	30
あまりそうでない	0	0
全く違う	0	0
その他	0	0
合計	10	

設問 9. どこで岡山オルガノン科目を知りましたか

配信大学

回答	実数	%
パンフレット	40	18.60465
ポスター	7	3.255814
ウェブサイト	6	2.790698
友人より	25	11.62791
教職員より	75	34.88372
その他	62	28.83721
合計	215	

受信大学

回答	実数	%
パンフレット	4	40
ポスター	2	20
ウェブサイト	1	10
友人より	3	30
教職員より	0	0
その他	0	0
合計	10	

2

地域活性化委員会の活動

平成23年10月1日から平成24年3月6日までの「第5章 地域発信力育成のための取組 第3節 地域活性化委員会の活動」の報告は、以下のとおりである。

(1) 平成23年度 第2回地域活性化委員会

平成24年2月23日（木）に第2回地域活性化委員会を開催し、以下の3議題について議論した。

議題1 域活性化委員会活動のまとめについて

議題2 平成24年度「日ようび子ども大学」について

議題3 大学コンソーシアム岡山の委員会委員について

① 議題1について、大崎 紘一委員長より平成21年度に、各大学が行っている教育や研究テーマについて調査を実施した結果、県内の特定地域に関する研究と子供や高齢者に関する研究の二つのテーマが挙げられた。

4. 岡山商科大学オフィス

ことと、大学コンソーシアム岡山で実施されてきた学生・教員参画で行うエコ活動を加え、これらを中心に約二年半、事業を実施してきたことの説明がなされた。

平成22年度は「エコナイト」、「地域活性化シンポジウム」、平成23年度は「大学連携による地域活性化シンポジウム」、「エコナイト」を実施したが、岡山オルガノン事業が始まるまで、各大学が個々に行ってきた研究を大学連携という形で実施することができ、今後の連携体制を整えることができた。

平成23年度に行われた大学連携による地域活性化シンポジウムでは、二つの分科会が設けられ、一つは大学教育連携センターを中心に「大学における活動と大学間連携」をテーマに、基調講演や学生による活動報告、パネルディスカッションが行われた。もう一つは「地域活性化委員会」を中心に「日ようび子ども大学」をテーマに実施し、多くの来場者があり、地域貢献をすることができた。

平成22年度に行われた「地域活性化シンポジウム」では、岡山商科大学の多田委員を中心に研究発表やパネルディスカッションを実施し、岡山を地域として捉えた視点から考えると、重要な取り組みであった。

平成22、23年度と実施したエコナイトでは、各大学の学生が参画し、今後も実施していきたい。今年度は3月11日の東日本大震災があったことにより、復興支援活動についても78名の学生が前向きに取り組み、岡山市と連携して実施することができた。

② 議題2について、大崎 紘一委員長より来年度の「日ようび子ども大学」について、岡山県から会場の貸し出しと開催候補日の提案の案内がなされた。陪席いただいている岡山県教育庁の亀山氏より平成24年度の日ようび子ども大学の会場として、岡山県生涯学習センターを提案され、実施候補日と平成25年にオープンを予定している未来科学棟について説明がなされた。

平成24年度の実施については、1月20日に開催された大学コンソーシアム岡山の代表者会議で継承が決定し、事業費が予算計上されている。

そこで各大学の意見も踏まえ、平成24年度の「日ようび子ども大学」は生涯学習センターで実施する方向で検討していくこと了承された。また、大崎委員長より小委員会を開催し、実施案をまとめることが提案され了承された。

③ 議題3について、大崎 紘一委員長より平成24年度から大学コンソーシアム岡山に事業を継承し、新組織で運営していくことが決まり、大学コンソーシアム岡山で各委員会が設立されることの説明がなされた。大学コンソーシアム岡山の地域貢献委員会に各大学から委員を選出していただく際、地域活性化委員会委員の先生方に担当していただきたいとの依頼がなされた。

各連携校取組

- ・吉備国際大学
- ・くらしき作陽大学

各連携校取組

1

吉備国際大学

1. 取組内容

吉備国際大学においては、岡山オルガノンの事業を教職員のFD・SD、教育効果向上に活用していく観点から「共同FD・SD委員会」、「双方向コンテンツ委員会」、「学士課程教育連携委員会」、「e-Learning 運営委員会」および岡山県や高梁地域の活性化を目的とした「地域活性化委員会」を設立し、それぞれが学内に対する意識形成と広報活動、実際の事業への取り組みを行った。

※吉備国際大学における取り組み状況

平成21年11月	学内に岡山オルガノン各委員会組織を設立。
平成22年 1月	学士課程教育連携委員会において、各大学の単位認定制度の整備状況について単位互換制度を検討。
平成22年 3月	連携校の同意を得たライブ教育配信用のTV会議システムを整備し、TV会議システムの会議を開催。 第1回FD・SDシンポジウムへ参加。
平成22年 7月	エコナイトの開催。
平成22年 8月	ライブ型遠隔授業の受講環境を整えるため、多地点による接続テストの実施。
平成22年 9月	「e-Learning 著作権セミナー」ライブ型遠隔講義へ参加。 「スポーツ産業論」をVOD科目（後期）にて実施。
平成22年12月	「戦略的大学連携 和歌山総合シンポジウム」へ参加。
平成23年 6月	「大学連携による地域活性化シンポジウム」へ参加。
平成23年 7月	エコナイトの開催。
平成23年 8月	共同SD研修会 クレイマー対策講座へ参加。
平成23年 9月	社会人基礎力養成「ワークショップ」へ参加。 「スポーツ産業論」をVOD科目（後期）にて実施。
平成23年10月	「大学連携遠隔授業とFD・SDシンポジウム」へ参加。
平成23年11月	「ICT活用教材作成講習会」へ参加。
平成23年12月	「岡山オルガノン事業報告会」へ参加。

5. 各連携校取組

2. これまでの成果

本学の岡山オルガノン事業に関する取組は現在、教職員の「FD・SD」と学生への環境意識、社会人基礎力、教育・学習支援の向上に活用されている。

SDとFDについては第1回FD・SDシンポジウムに教員を派遣し本学の授業アンケートを公表した。さらに、平成21年度よりライブ型遠隔講義の機器・設備の整備を開始し、平成22年度に「e-Learning 著作権セミナー」をライブ型遠隔講義へ参加した。平成23年度には「共同SD研修会～クレイマー対策講座～」へ本学教職員が参加後、クレイマーに対しての対応策を学内に周知した。VOD型遠隔教育においては、平成22・23年度にVOD科目へ「スポーツ産業論」を配信し、平成22年度は他大学より53名の学生が履修した。学生への環境意識向上については、平成22・23年度に実施した「エコナイト」において、マイカー利用自粛、20:00までに学内のライトダウンを学生と教職員が共同で行い、高梁市紺屋川にてキャンドルナイトを地域と共同で開催した。さらに、本学では、岡山県内の大学としてははじめて、エコアクション21環境経営システムの認証を取得し、環境に優しい大学を目指して活動している。この活動では、エコアクション21学生実行委員会を組織し、学生が中心となったエコ活動を展開している。

～キャンドルナイト in 高梁 2011～

吉備国際大学エコアクション21学生委員会
(通称、エコアクションクラブ)からの報告



①昨年に続き今年も、吉備国際大学エコアクションクラブ、高梁城南高校環境経営科、高梁高校生徒会・家庭クラブ、日新高校の共同による「キャンドルナイト in 高梁2011」を7月9日(土)19時より開催しました。



②キャンドルナイトで使うキャンドルは、大学食堂から出た廃天ぷら油やジュースの紙パックを再利用して制作したロウソクです(熱した油に菜油を混ぜて、紙パックに流し入れるところ)。



③吉備国際大学国際環境経営学部長・井勝先生と高梁城南高校・大山先生による開会式の挨拶が行われたのち、参加校の学生代表による点火式がキャンドルナイトの始まりの合図となりました(各校が持ち寄ったキャンドルに点火しているところ)。



一つひとつのキャンドルに、一斉に灯りが灯されていきました。このままでも、紺屋川沿いの木々の緑とマッチングして綺麗でしたが、夜になると、絵のような風景が広がりました…。



ご覧下さい!このようにろうそくの仄かな光が幻想的な風景を作り出していました。この光のもと、静やかに過ごす時間、人とのつながりの大切さ、そして資源の大切さも感じてもらえたのではないのでしょうか?

キャンドルナイト in 高梁2011

3. 現在の課題

本学の課題として、地域発信力の「地域活性・環境教育の創出」については多少は実施できているが、「地域貢献活動」や「地域人材の活用」についてはまだまだ実施できているとは言い難い。社会人基礎力については、全学共通カリキュラムとして、キャリア教育を充実させており、学内では積極的に取り組んでいるが、「養成講座」や「キャリア形成講座」との連携が不足していた。学士力育成の双方向授業配信は講義時刻が大学間で異なっているため、他大学のライブ講義の受講が難しい状況にあり、学生へ受講案内をしてはいる

5. 各連携校取組

が結果に結びついていない事から、ライブ講義の受講時間や学生への受講方法の検討、またVOD科目の履修についても学内で学生が自由に使用できる設備環境の検討が必要である。

4. 今後の展望

今年度は岡山オルガノン事業の最終年度となっており、これまでに取り組んできた事や、現在取り組んでいる各事業について、大学コンソーシアム岡山への引継ぎ等、今後の取り組みの継続体制を整える必要がある。また、TV会議システムを利用して各連携大学と協力し、岡山オルガノンの構築でもある「地域発信力」「学士力」「社会人基礎力」の向上に今後も積極的に取り組んでいく。

2

くらしき作陽大学

(1) 戦略的大学連携を強化するための職員研修実施

岡山オルガノンプログラムを円滑かつ高度に実施するために、以下の通り教職員研修を実施した。

■幹部教職員研修

【研修目的】大学教育充実のための戦略的大学連携を進めるために、最も健全なマネジメントが行われた場合の組織風土とはどのようなものかを検討する。また各自が抱えているマネジメントに関する基本的な考え方や信条を確認し、組織のあるべき姿を検討する

【研修日時等】 日時：平成23年8月29・30・31日

場所：瀬戸内マリナーダイヤモンドホテル

参加者：本学幹部職員12名

【研修内容】2つのチームに分かれて、組織の理想的な在り方を検討するプロセスで、コミュニケーション、ギャップ対応、他部署との関係、問題解決の方法、仕事への姿勢、コスト意識、創造性などを検討した

■若手事務職員研修

【研修目的】本学若手職員が戦略的大学連携を実施していくに当たって、その動機づけ（使命）、あるべき目標の設定を明確化し、論理的思考、目標達成に向けてのマネジメント、チームワークを強化するため、座学と実習を組み合わせて研修を実施する。特にマネジメント研修においては、戦略的大学連携を支援する組織論に重点を置くこととした

【研修日時等】 日時：平成23年9月21日（水）10:00-17:00

場所：くらしき作陽大学1号館3階 会議室

参加者：本学若手職員17名

【研修内容】 講義：テーマ「問題解決能力を高める論理的思考とチームワーク」

問題解決実習「的あて」

■定性評価（所見）：本学において、幹部職員及び若手職員がそれぞれのレベルにおいて、「大学教育の充実のための戦略的大学連携」を進める意義、目標を明確化し、目標達成のためにどのような行動をしていくかを考えて行動する組織風土作りにつながった。特に若手職員においては、講義と実習を通じて大学教育充実についての使命とその達成のためのマネジメント、組織について理解を深めることが出来た。

5. 各連携校取組

(2) 公開講演会の企画・実施

FD・SD活動の一環として、平成24年2月24日に公開講演会「大学改革の現在と中央教育審議会の動向」を開催した。講師は文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室の樋口聰氏で、学内外から68名（学内43名、学外25名）の参加があった。講演のあと質疑応答があり、活発に意見交換がなされた。



公開講演会風景

